

| | | |
|-------------|---|-------------------|
| 校長室だより | | 令和3年5月27日発行 |
| 共学共高 | 第 | |
| | 2 | 発行責任者 |
| | 号 | 白梅学園高等学校長 武内 彰 |

体育祭～うめっこたちの底力

令和3年5月26日（水）雲の多い空ではあったが、その分、日差しが厳しすぎることもなく、比較的好条件の下で、第58回体育祭が開催された。今年度初めての全校での学校行事となった。コロナ禍にあるため、生徒席を学年ごとに分散させる、器具を扱う際には手指消毒を行う、種目を精選して午前中のみで開催する、など特別な条件下での実施となったが、開催できたことは教育的な意義の面からも大きいことである。

開会式のために全校生徒が整列する。司会の生徒が「静かにしてください。」と一言いうだけで、瞬時に静寂が行き渡る。

まずは生徒会長Yさんの開会宣言。続いて選手宣誓は、体育委員長のYさん。しっかりと朝礼台の上にいる私の目を見ながら、堂々たる宣誓をしてくれた。また、直前に「緊張します。」と私に話してくれた体育副委員長のFさんも的確にそして堂々と競技諸注意を伝えてくれた。

私にとって当惑させられたのは、プログラム1番の準備体操である。さて、しっかりラジオ体操をしようと思っていたのだが、ダンス部の生徒たちが最前列に並んでお手本を示しながら、体操とストレッチの要素が入り混じったダンス形式の準備体操が始まったのであった。生徒たちは音楽に合わせて何の問題もなく取り組んでいるが、還暦を迎えた私には無理であった。来年は生徒たちの対応力を見習って、何とかついていきたいものだ。

競技種目は精選されているとはいえ、なかなかハードだ。100m や 70m ハードルもある。これらの種目では全国レベルの陸上部生徒の出場が控えられているのかもしれないが、時折陸上部ではないかと思われるスピードの生徒がいて、思わず「速い！」という声があちこちで漏れる。

2年台風の目、3年障害物リレー、1年大縄跳び。これらの種目は、もちろんスピードや跳ぶ回数も要求されるが、何といてもチームとしての総合力が問われる。それぞれ上手に役割分担をして、しのぎを削っていた。障害物リレーの最後は、大きな段ボールのブロックを6つくらい組み合わせて、担任の似顔絵を完成させるというものだ。顔の特徴をよくとらえていて、思わず「〇〇先生だ。」とつぶやいてしまう。

部活対抗リレーは、文化部と運動部とで分かれて実施された。文化部は服装もバトンもその部活らしさがよく表れている。何といても演劇部は役者だな、と感心させられる。それぞれの部活動の個性が表れていて、観る者を楽しませてくれた。運動部はまさしく全力勝負

である。陸上部の圧勝かと思われたが、途中ハンドボール部が首位に立ち、このままゴールするかと思われたが、最後は陸上部が追い抜いてゴールした。面目躍如である。

バトン部とダンス部の演技も見応えがあった。バトン部には周囲の生徒たちから「可愛い」の連呼があったが、本当に華がある。ダンス部はどちらかという硬派で本格的な演技で、こちらにも周囲から感嘆の声が上がっていた。

クラス対抗リレーは、どの学年も盛り上がる。「応援は拍手で」との注意がなされていたが、この時ばかりは・・・である。どの顔も真剣で、持てる力のすべてを發揮していた。

最終種目は、3年生によるダンス演技である。4色の扇子を持った生徒たちが4つのポジションにそれぞれ分かれて、時にはダイナミックに、時には繊細に、大人数でまとまりのある演技を見せてくれた。

閉会式で、100m と 70m ハードルの優勝者の表彰、各学年第1位から第3位までの表彰があったが、どの生徒も温かな拍手を送っていた。生徒全員に参加賞が用意され、体育副委員長のKさんに私から手渡す。後程ある生徒に確認したら、参加賞は大学ノートとのこと。その生徒からは「勉強しなさいということかしら。」との声。

生徒会副会長のSさんの閉会宣言で、すべてのプログラムが終了した。

計画された時間通りにすべての種目が終了した。先生たちのサポートの下、生徒たちも持てる力を發揮して、きびきびと動いていた。種目間に無駄がない。白高生の底力を感じさせる半日であった。こうした白高生たち（梅っ娘？梅っ子？（うめっこ）というらしい。閉会式の講評の際に生徒たちが私に教えてくれた。）の活躍する様子を見ていると、無性に応援したくなる。一人一人が懸命に取り組んでいるし、集団としてもしっかりと行動できる。そして仲間に対して心からの温かな拍手や賛辞を送ることができる人柄。

講評の中で生徒たちに次のように伝えた。「明日からの学びにおいても、これから開催される学校行事や部活動においても、やがて迎える進路実現においても、お互いに高め合う集団であり続けてほしい。」そう願わずにはいられない。





(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)